

平成 28 年 8 月 1 日

各 位

会 社 名 栗田工業株式会社
代 表 者 代表取締役社長 門田 道也
(コード番号 6370)
問合せ先 経営企画室 企画部長 森 博明
(TEL 03 - 6743 - 5336)

(訂正)「2017年3月期 第1四半期決算説明会」資料の訂正について

当社は、平成 28 年 7 月 29 日に「2017年3月期 第1四半期決算説明会」資料を開示しましたが、記載内容に一部誤りがありましたので、下記の通り訂正いたします。

記

【訂正箇所】

9. 財政情報

現金預金・有価証券の対前年比

(訂正前) -46

(訂正後) +46

訂正部は(別紙)に赤丸を付しています。

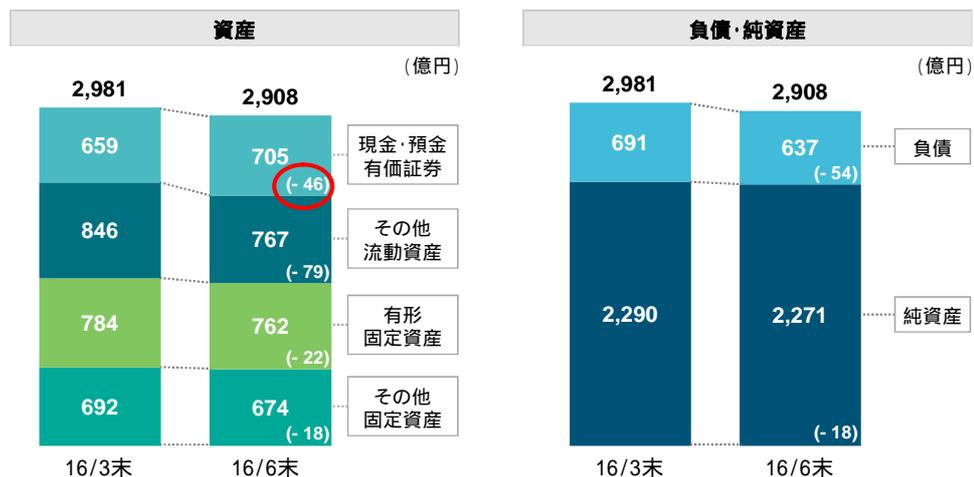
以上

(訂正前)

2017年3月期第1四半期実績



9. 財政状態



- 売掛金が回収の進捗により減少。
- 有形固定資産は、超純水供給事業に係る減価償却額が設備投資額を上回り減少。

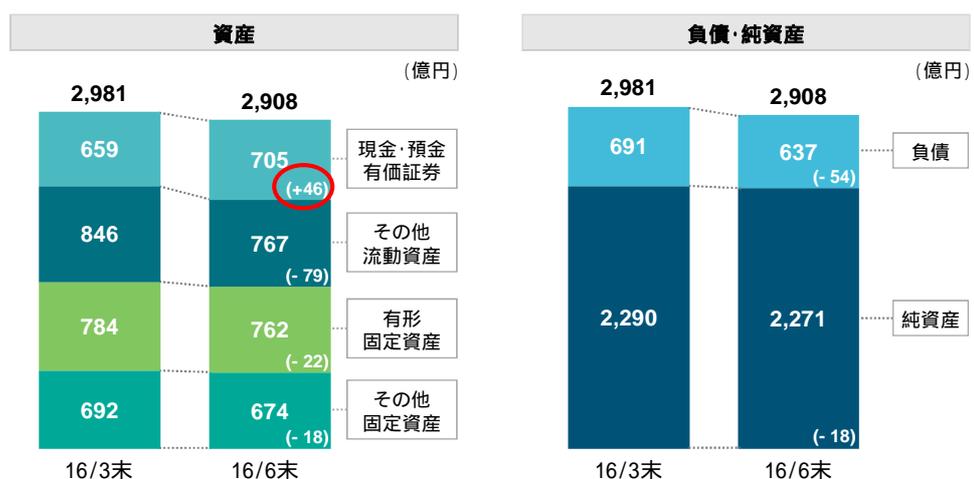
9

(訂正後)

2017年3月期第1四半期実績



9. 財政状態



- 売掛金が回収の進捗により減少。
- 有形固定資産は、超純水供給事業に係る減価償却額が設備投資額を上回り減少。

9



栗田工業株式会社

2017年3月期 第1四半期決算説明会

(証券コード: 6370)

2016年8月1日

1. 業績ハイライト

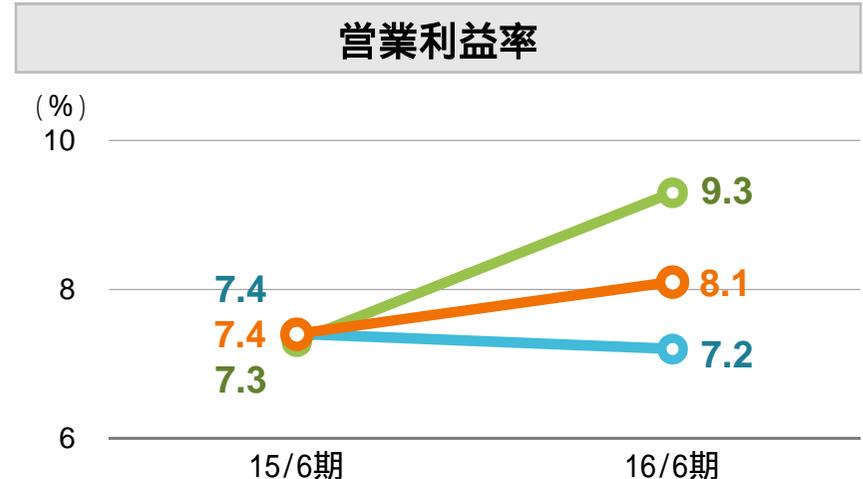
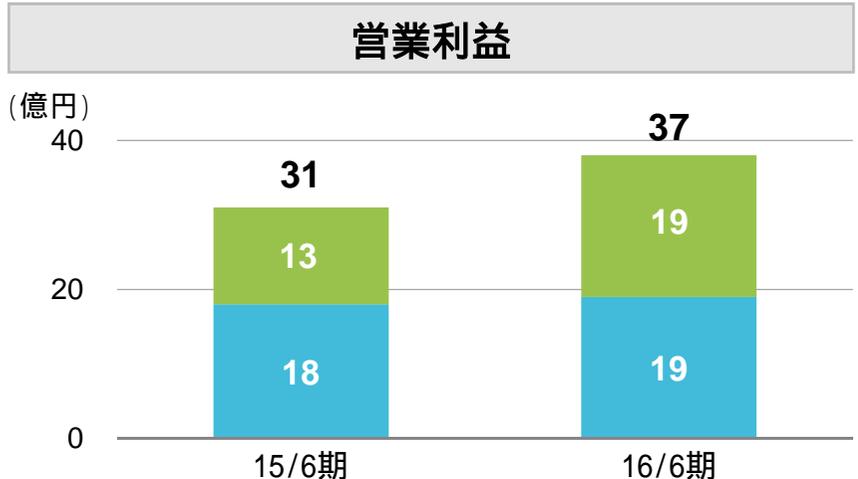
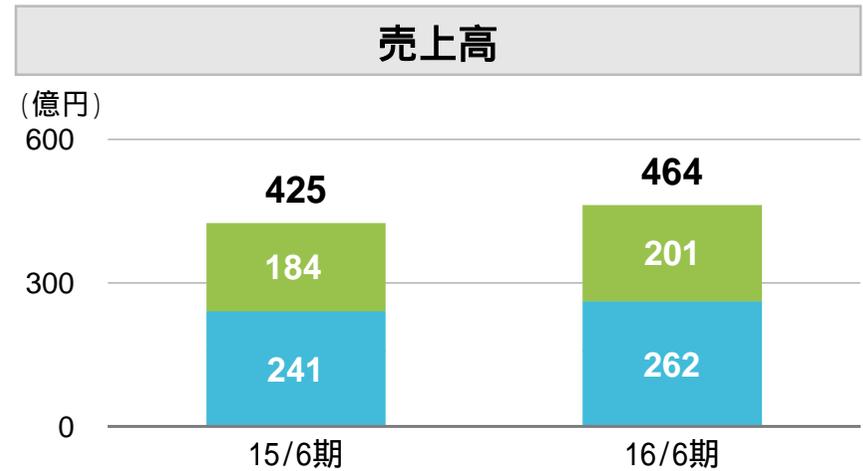
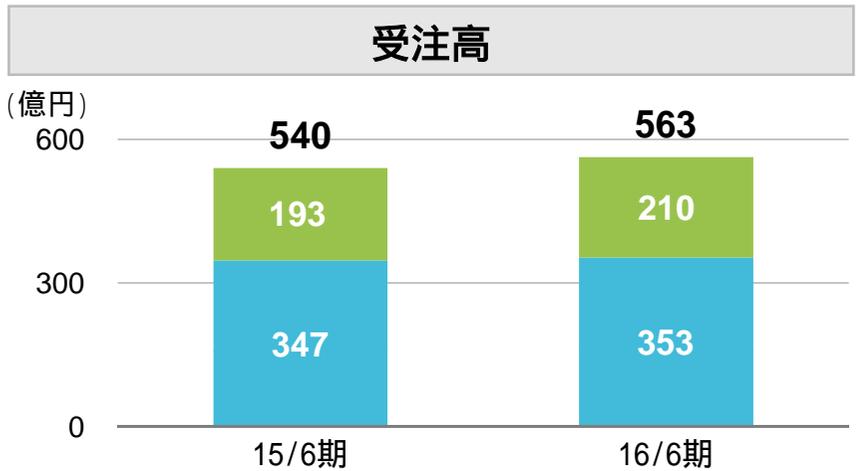
(億円)

	2015/6期 (PPA *反映後)	2016/6期	前年同期比	2015/6期 (PPA *反映前)
受注高	540	563	+ 4.3%	540
売上高	425	464	+ 9.2%	425
営業利益	31	37	+ 19.6%	36
経常利益	35	38	+ 7.6%	40
親会社株主に帰属する 四半期純利益	23	26	+ 12.6%	26

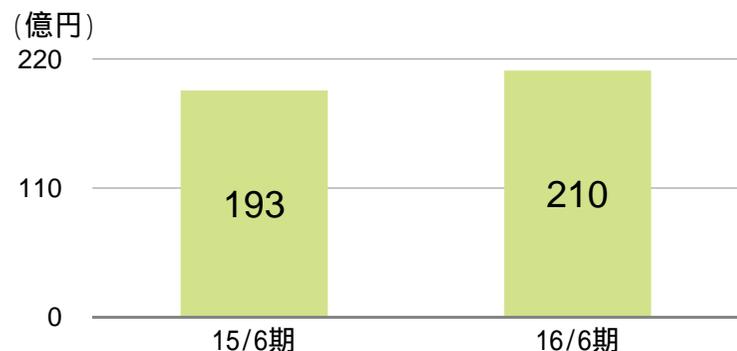
* PPAとは「Purchase Price Allocation」の略で、買収事業の資産・負債を公正価格にて評価し、取得原価を再配分すること。

- 受注高は、欧州での買収事業の連結対象期間が1カ月分増加したことにより、主に水処理薬品事業で増加。
- 売上高は、水処理薬品・水処理装置ともに増加。
- 利益については、PPAの影響を前第1四半期に遡及して修正。

2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率

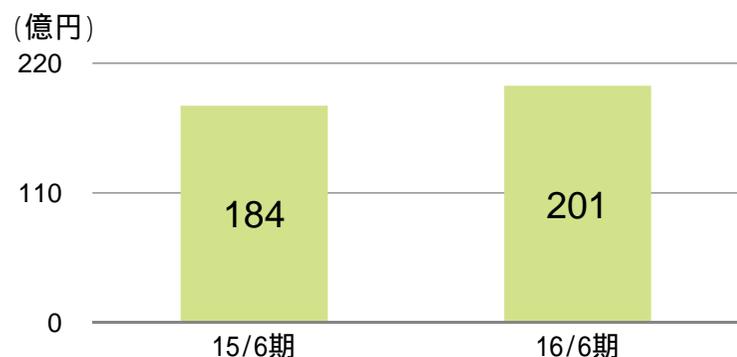


3. 水処理薬品事業



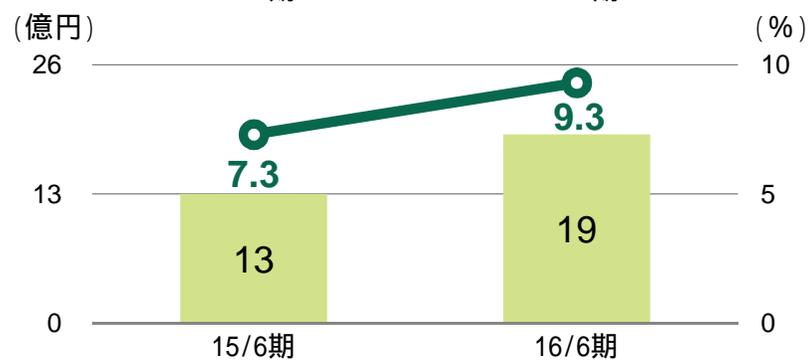
受注高

- 国内は顧客の工場操業度の回復が緩やかな中、増加。
- 海外は欧州での買収事業の連結対象期間が1カ月分増加。



売上高

- 同上

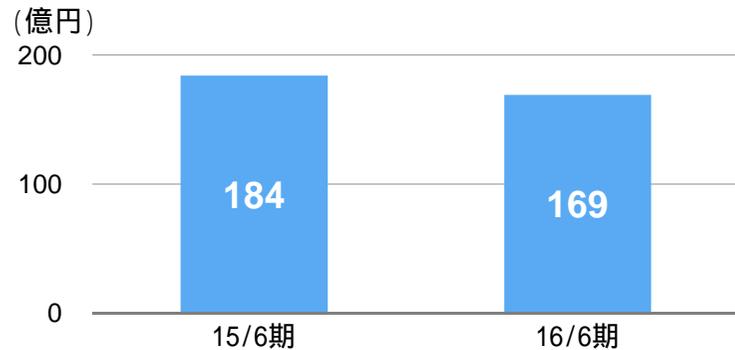


営業利益

- 増収効果に加えPPAに伴う一時的な費用がなくなったこともあり増益。

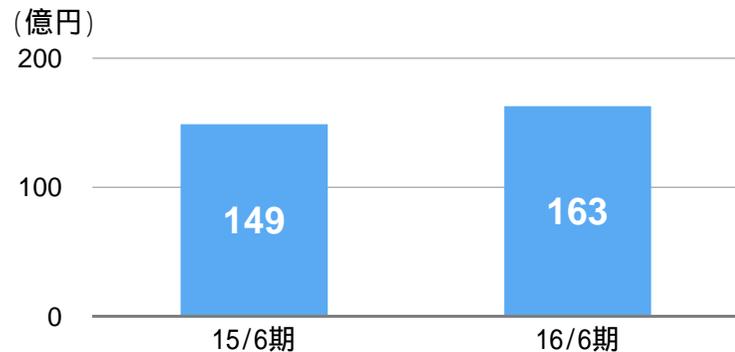
● 営業利益率

4. 水処理装置事業（電子産業向け）



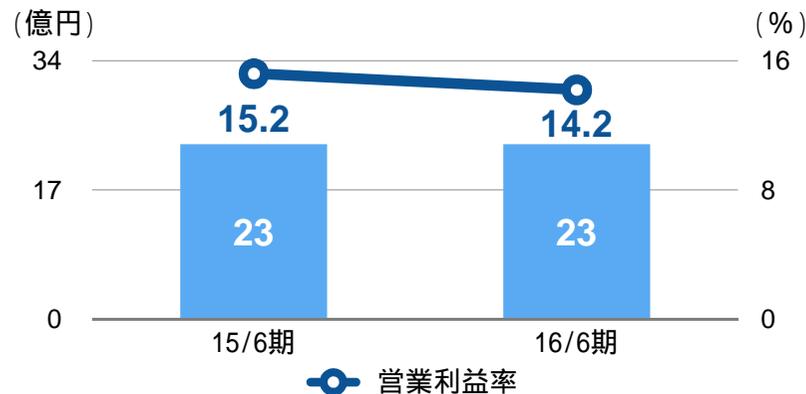
受注高

- 国内メンテナンスはスマホ需要低迷により減少。
- 海外ハードは好調だった前年同期に比べ減少。



売上高

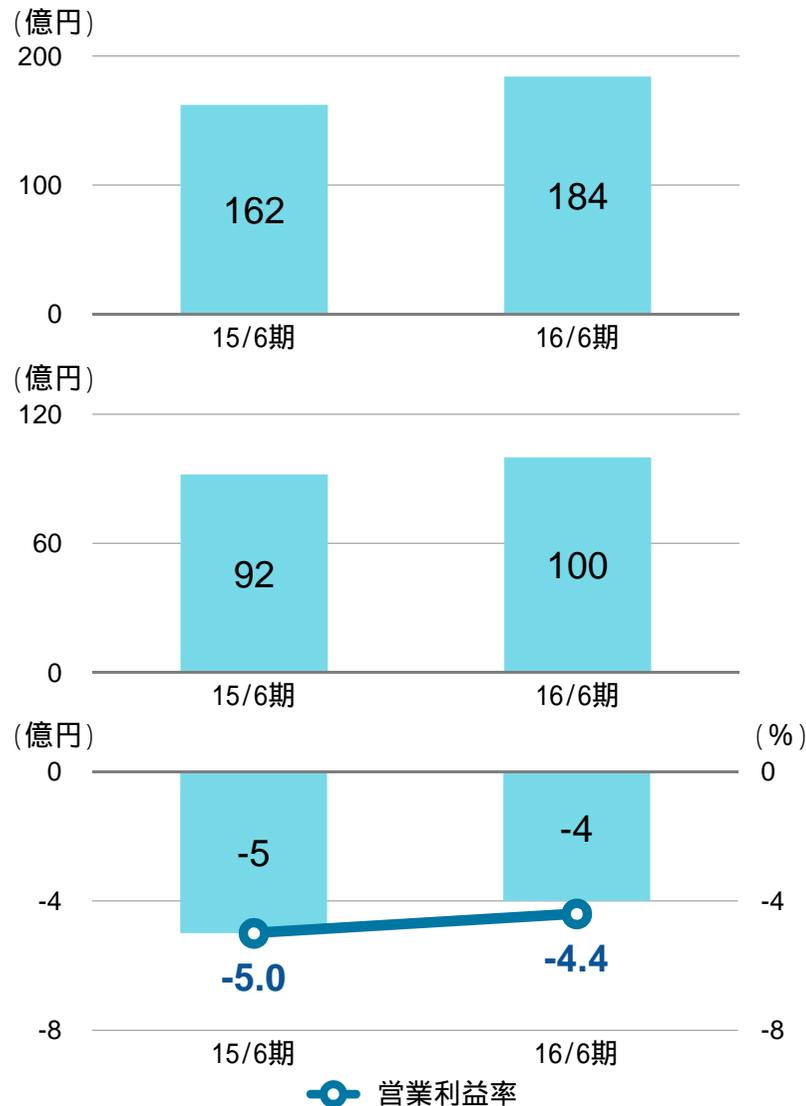
- 海外ハードは大型案件の工事進捗により増加。
- 国内メンテナンスは受注残からの売り上げにより増加。
- 超純水供給事業は横ばい。
- 精密洗浄は顧客の操業度低下により減少。



営業利益

- 海外事業の収益は改善。
- 超純水供給事業はメンテナンスコストが前年同期に比べ増加。

5. 水処理装置事業（一般産業向け）



受注高

- 一般産業向けハードは微減。
- 土壌浄化が大型案件受注により増加。
- 官公需メンテナンスが老朽化設備の改造案件により増加。

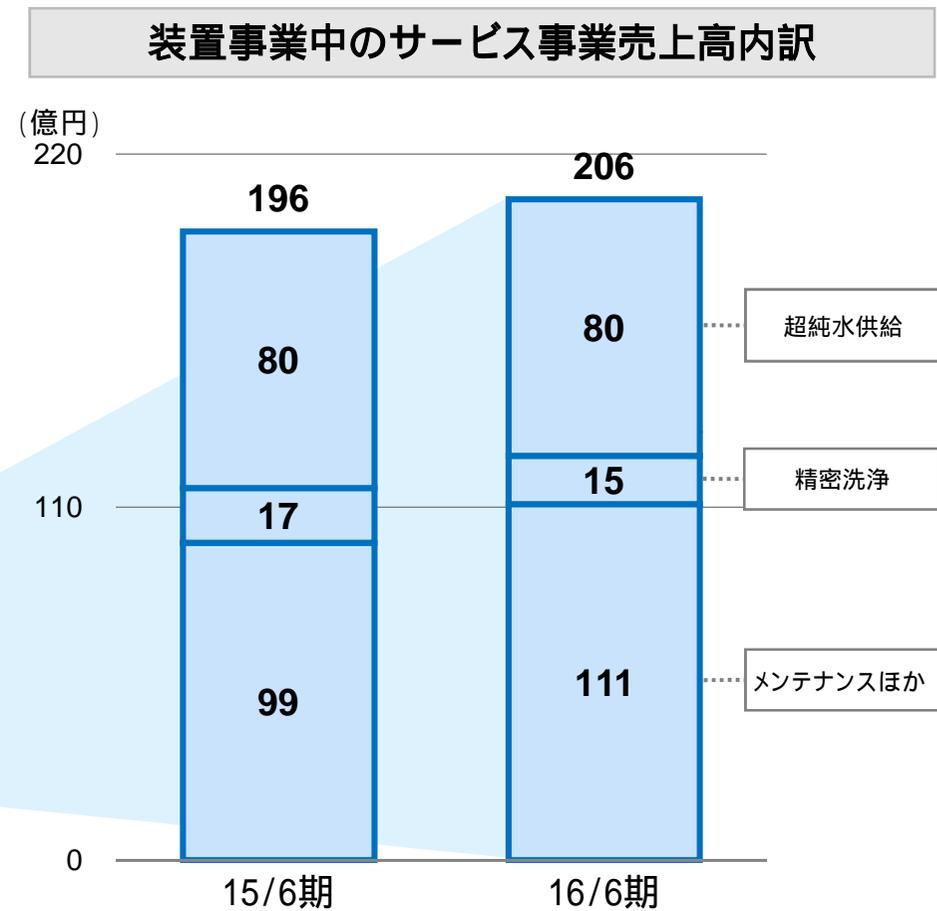
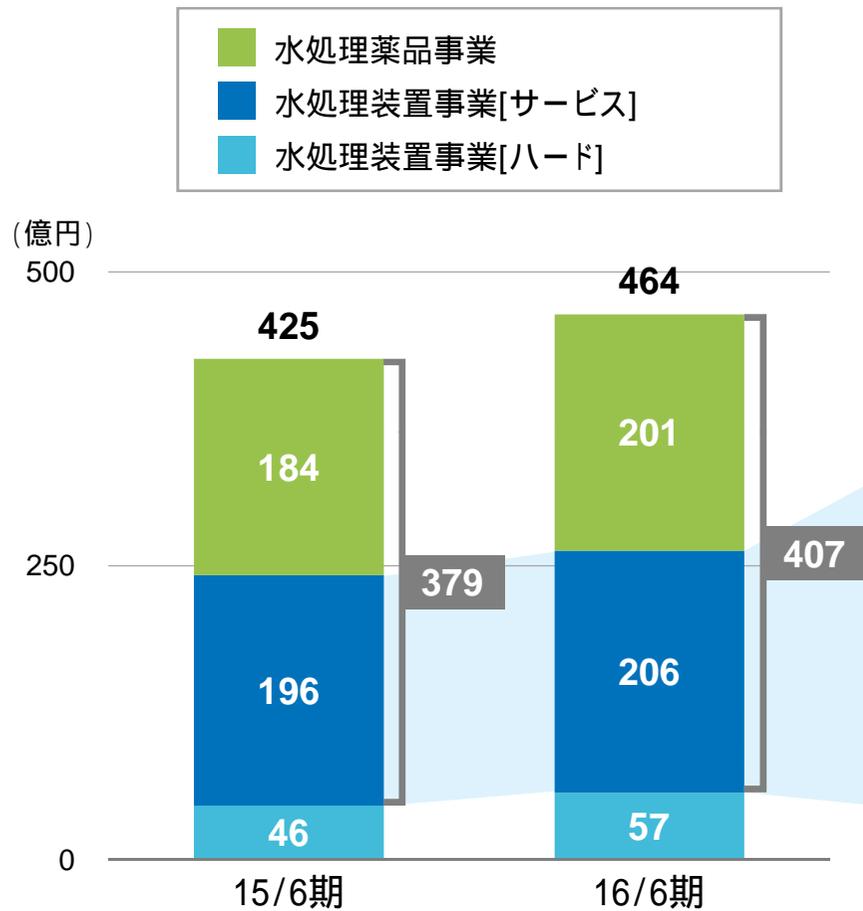
売上高

- 一般産業向けハードと土壌浄化が工事進捗により増加。
- 一般産業向けメンテナンスは受注残からの売り上げにより増加。
- 電力向けハードは減収。

営業利益

- 増収の効果により赤字が縮小。

6. サービス事業売上高



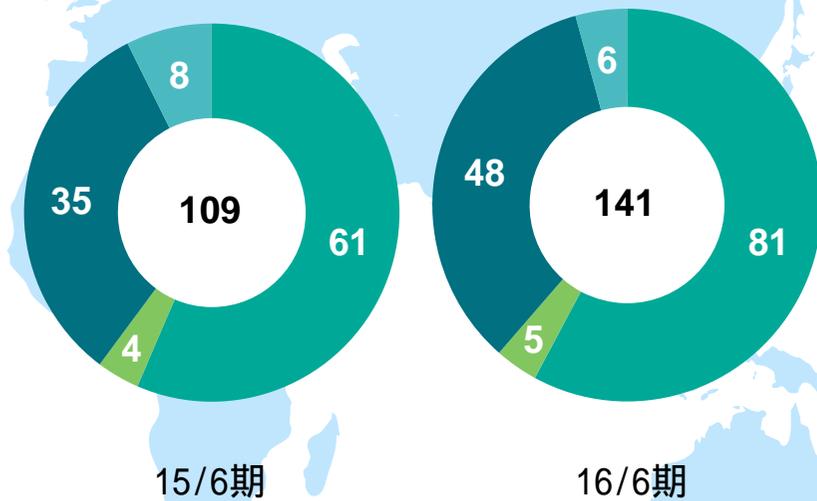
■ 精密洗浄は減少したがメンテナンスほかは堅調に増加。

7. 海外事業売上高

海外地域別売上高

■ アジア ■ 北米 ■ EMEA* ■ その他

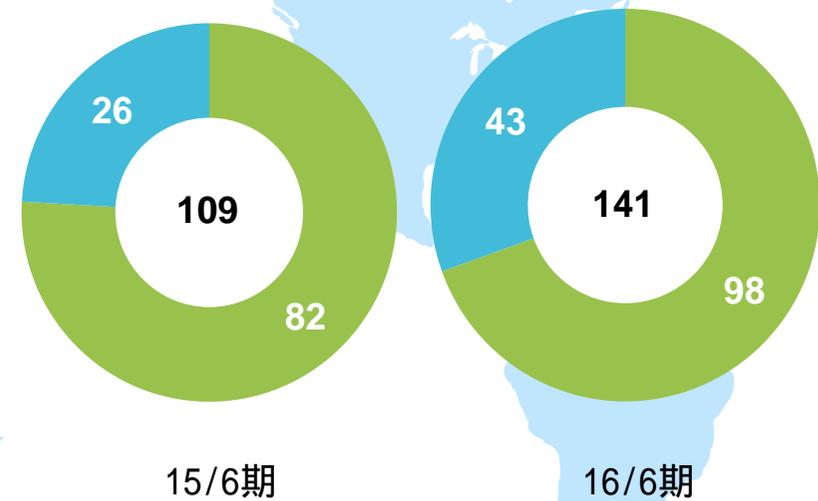
(単位:億円)



海外事業別売上高

■ 水処理薬品事業 ■ 水処理装置事業

(単位:億円)

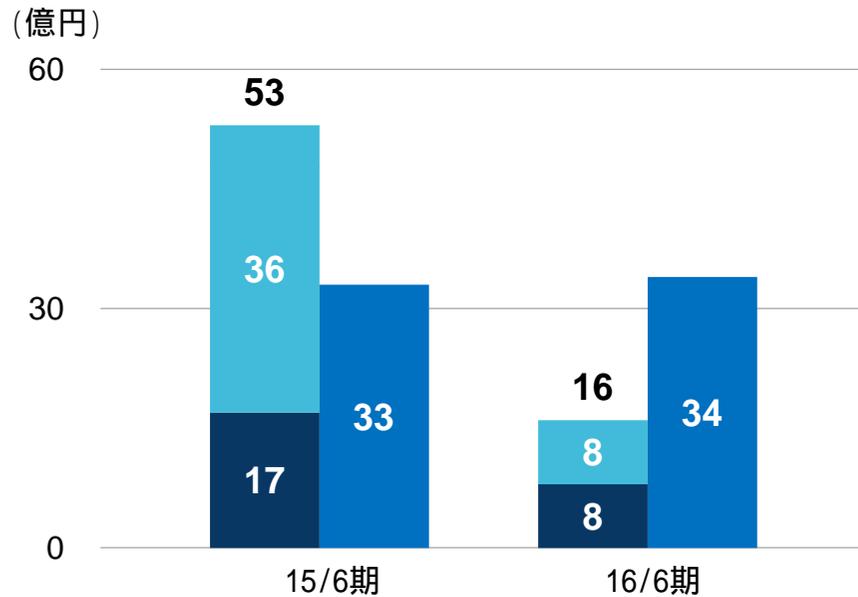


- 水処理薬品事業は、EMEAと中国で増加したがその他は減少。
- 水処理装置事業は、主に大型案件の工事進捗により増加。

* 15/6期は欧州

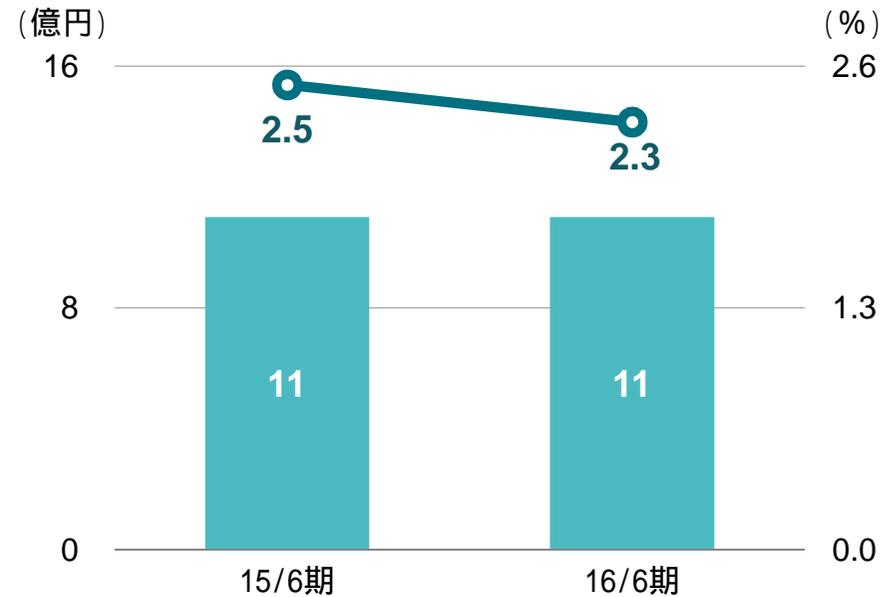
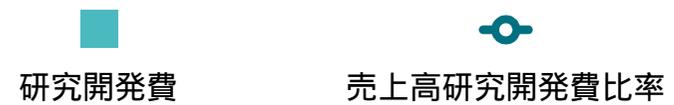
8. 設備投資・減価償却費・研究開発費

設備投資・減価償却費



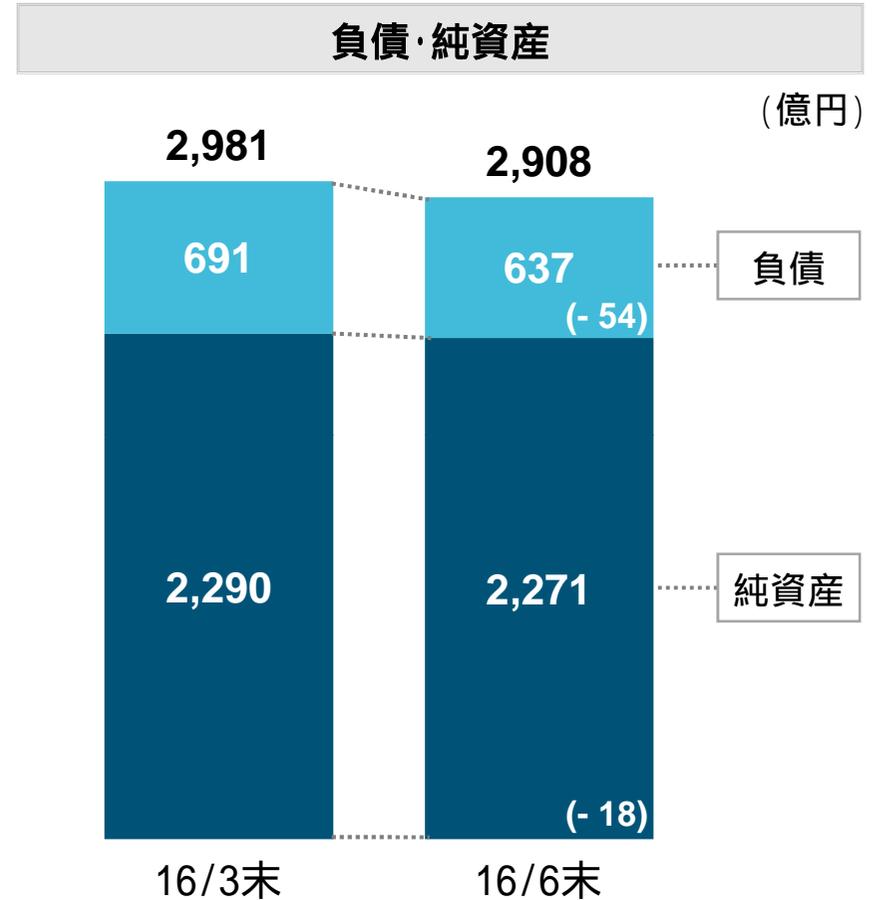
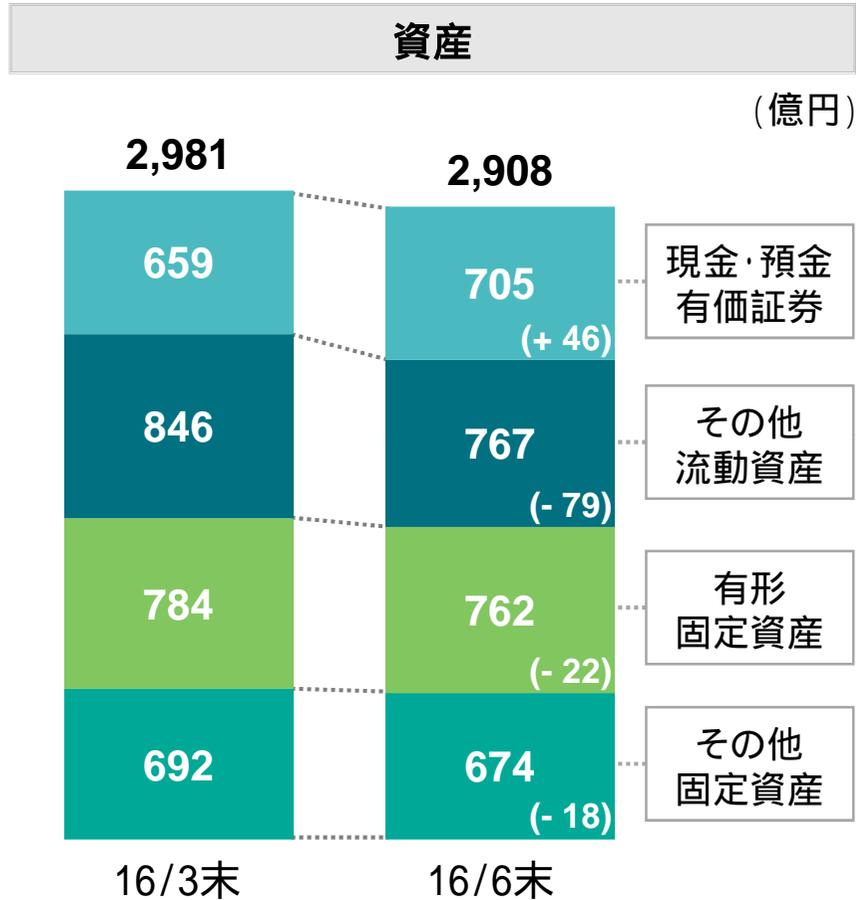
- 超純水供給事業の設備投資が大幅に減少。
- 減価償却費は微増。

研究開発費



- 研究開発費は横ばい。

9. 財政状態



- 売掛金が回収の進捗により減少。
- 有形固定資産は、超純水供給事業に係る減価償却額が設備投資額を上回り減少。



U R L <http://ir.kurita.co.jp/>
M A I L ir@kurita.co.jp

【 将来見通しに関する注記事項 】

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。